



書あり 師あり 友ありて

引き継いでいかなければならない記憶

～ 阪神・淡路大震災から27年です ～

学校長 平田 高之

この2年間は新型コロナウイルス感染症対応のニュースが中心となっていますが、ここ数日は阪神・淡路大震災のことが取り上げられています。当時のことは、皆さんの記憶にはどのように残っておられますか。もしかするとトラウマになっておられる方もおられるかもしれませんが、2年前の「学校だより」でもご紹介しましたが、今一度振り返ってみたいと思います。

私はその時はオーストラリアのメルボルン日本人学校に派遣されており、日本にいませんでした。日本人学校の事務長から、慌てた様子で関西で大きな地震があったらしいからすぐに実家（神戸市灘区）や大蔵中学校に連絡を取るようと言われたのが第一報でした。当時は「活断層」という知識はなく、何の根拠もなく「関西は地盤が固いから地震は大丈夫。」と勝手に思い込んでいましたから、最初は大したことないだろうという認識でした。25年前ですから今のようにインターネットが発達していませんし、携帯電話もありません。とりあえず、学校の電話を使わせてもらい大蔵中学校と実家に連絡を取ってみました。幸い学校には連絡が取れました。電話に出られた元同僚の先生だったのですが、「へいちゃんすごかったで。今まで経験したことのないすごい揺れやった。えらいことになってるで」というのが第一声でした。幸い、大蔵中学校では亡くなった生徒や先生はおられず、学校施設も大丈夫ということが確認できほっとしましたが、なかなか実家には連絡が取れませんでした。連絡が取ることができたのはその日の夕方、建物自体は半壊でしたが、家族全員の無事とそのまま住めることが確認できました。その日の夜に、メルボルンの日本人向けテレビ番組で配信されていたNHKのニュースに、自分の生まれ育った神戸の街の変わり果てた姿が写し出された時は、衝撃と悲しみで涙が止まりませんでした。その後、東灘区の社宅に住んでいたところが、建物の下敷きになり亡くなったという事を聞き呆然としたことが、鮮明に思い出されます。

昨年末には明石でも震度3の地震がありましたが、日本列島が地震の活動期に入っているようで、これから先に起こる可能性の高い南海トラフ地震にいかに対応していくか、減災していくのか、生徒たちが地震にあった時に自分たちの命を守る行動をしっかりとれるよういかに防災教育を進めるかが、これからも学校現場の課題の一つだと考えております。

特に、本校は明石市でも東部に位置しているために避難所が設置される等、被害を受けた方が多い校区でしたし、本校区内にはモニュメントもありますので、改めて確認をしておきたいと思います。

<明石市の状況> (神戸新聞「写真で振り返る25年前」より)

- 地震規模(推計):明石市東部海側は震度7・西部海側は震度6・山側は震度4～5
- 明石市民の犠牲者:26名
- 住宅被害:全壊4,239件・半壊1万957件・一部員壊3万5,618件
- 避難所:学校や公民館23か所
- 仮設住宅:13か所856戸

<本校の状況> (「大蔵中学校 創立50周年記念誌」より)

- 1月17日:緊急避難所開設(武道館・技術室)避難者約400名
- 1月21日まで臨時休校
- 2月1日:学校施設応急危険度調査
- 2月18日:教職員による炊き出し
- 4月16日:避難所閉鎖

モニュメント「明日」(明石市大蔵海岸町1)

青々とした松の若木に囲まれた明石海峡に臨む公園の一角。高さ3メートル、長さ3メートルの白御影石で作られたモニュメントは、横たわった石の先端が震源地である淡路島北部を指し、ひしゃげた部分が地震の大きさを表現、垂直に立つ石が明日への希望を表している。建立は2000年1月17日。(今年で20年になります)銘板には、「兵庫県南部地震の犠牲となった市民の御霊を慰めるとともに、震災の貴重な教訓を後世に伝え、安心して暮らせるまちづくりを進めることを誓い、ここにモニュメント『明日』を設置します。」と刻まれている。下には、亡くなった市民26人の名前を刻んだ銅板などが入ったタイムカプセルが埋設されている。

「震災を越えて(兵庫県教育委員会)平成17年3月31日」より



この震災を機に兵庫県では、防災教育副読本「明日に生きる」を発行(平成9年1月)する等して防災教育を推進しています。平成10年から「トライやる・ウィーク」を実施し、県立舞子高等学校に、全国でも初めて防災をテーマにした環境防災科を設置(平成14年4月)する等、様々な取組が行われてきました。しかし、年数が過ぎるにつれ震災未経験者が増えていき、新型コロナウイルス感染症対応でルミナリエが実施できない等、震災が風化していくのではないかとということが危惧されます。震災の記憶を途絶えさせないために、17日は「震災を考える給食」、「シェイクアウト訓練」と防災担当者からの話と全校生での黙祷を行います。この機会に、保護者の皆様の経験等をお子様にご語り、その記憶を継いで頂ければと願っています。